

令和 3 年 3 月 23 日
高齢施策担当部高齢者支援課

地域ケア会議の実施結果概要

区では、地域ケア会議について地域包括支援センター担当区域単位で実施する「地域ケア個別会議」、「地域ケア予防会議」、「地域ケアセンター会議」と、日常生活圏域単位で実施する「地域ケア圏域会議」、区全域単位で実施する「地域ケア推進会議」を実施している。

令和 2 年度下半期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部会議の中止や書面開催等の対応を行った。

1 地域ケア個別会議

目的

個別ケースの検討を通じて、高齢者の課題解決を支援するとともに、課題解決に向けた社会資源の把握や地域包括支援ネットワークの構築を図る。

実施回数 25 か所の地域包括支援センターで実施した数の合計

令和 2 年度下半期実績（10 月から 2 月） 74 回

主な参加者

本人、家族、民生委員、医師、医療機関相談員、担当の介護支援専門員、社会福祉協議会、介護サービス事業所、障害サービス事業所、保健相談所、生活保護ケースワーカー、地域包括支援センター 等

主な検討事項

- ・認知症のある高齢夫婦世帯の状態の変化に沿った支援方針について
- ・認知症の進行に伴い金銭管理が難しくなってきた方の支援について
- ・若年性認知症の進行に応じた制度移行等、今後の対応・支援について
- ・知的障害のある子の成年後見人である親に認知症状がみられてきた事例について
- ・身寄りがいない方のターミナル期の対応について

2 地域ケア予防会議

目的

多職種協働により個別ケースを検討し、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントの実施を支援する。また、平成 30 年 10 月から、訪問介護の国が定める基準回数を超える生活援助サービスをケアプランに位置付けた場合、ケアマネジャーからケアプランの提出を受け、多職種で検証することとなった。これを受け、地域ケア予防会議において、提出されたケアプランの検証も行う。

実施回数

令和 2 年度下半期実績 25 回（書面開催）

主な参加者

理学療法士、作業療法士、保健師、管理栄養士、歯科衛生士、主任介護支援専門員、担

当の介護支援専門員、介護サービス事業所、地域包括支援センター 等

主な検討事項

- ・新型コロナウイルス感染症の影響でデイサービスに行くことができない方への支援について
- ・新型コロナ禍で外出機会が減少している方の重度化防止について
- ・身体機能の低下を防ぐための有効なリハビリテーションについて
- ・糖尿病があるが好き嫌いが多く食生活に偏りがある方の食事の工夫について

3 地域ケアセンター会議

目的

地域ケア個別会議と地域ケア予防会議を通じて抽出された地域課題（認知症の方が暮らしやすい街づくり、地域の居場所づくり等）について、その解決に向け、地域で暮らす・働く・活動する関係者で話し合う。

実施回数

令和2年度下半期 25回（25センター各1回）

主な参加者

民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、訪問支援協力員、介護サービス事業所（ケアマネジャー含む）、医療機関、警察署 等

主な検討事例

「地域での暮らし」をテーマに、新型コロナウイルス感染症での生活の変化や今後備えていくこと等について検討

（主なご意見等）

- ・デイサービス等を控える方が増え、認知機能の低下が見受けられる。
- ・必要最低限の介護サービス（電話での状況確認等）では利用者ご本人の状況が分かりにくい。
- ・地域の高齢者等を地域で見守ることの仕組み充実が必要である。

なくならない消費者被害から高齢者を地域で守るために～気付くにはどうするか、気付いたらどうするか～

（主なご意見等）

- ・身近で特殊詐欺や消費者被害に遭った話を時々聞いている。留守電やチェーンロックを活用し、詐欺に遭わないようにしたい。
- ・町会でできることとして、回覧板と掲示板の活用をしていきたい
- ・被害に遭った後の対処だけでなく、被害に遭ったかもしれないという気づきのポイントについても整理する必要がある。

4 地域ケア圏域会議

目的

地域ケアセンター会議で把握された地域課題（集合住宅における見守り対策、介護予防の普及啓発のための地域の関係機関の連携等）を圏域単位で協議する会議。地域の様々

な関係機関で地域課題を共有し、それぞれの役割分担を整理し地域課題の解決を目指す。

実施回数

令和2年度下半期 4回（練馬、光が丘、石神井、大泉の各圏域1回） 書面開催

主な参加者

民生児童委員、町会・自治会、介護サービス事業所、地域包括支援センター 等

主な検討事例

新型コロナ禍における高齢者の日中活動について

（主なご意見等）

- ・多くの高齢者は、「閉じこもり生活」でちょっとした外出でも疲れやすくなっており、「体力の衰え」は「齢のせい」とあきらめてしまう。
- ・「コロナ禍」のもとでの経験から、高齢者本人はもとより、本人を支援する家族等が時代の変化についていけるかが大きな課題である。
- ・コロナ後の変化に対応した高齢者対策として、介護保険のお世話にならないで済む「元気高齢者を育成するシステム」が必要である。

生活の基盤「住まい」について～在宅生活を続けるために～

（主なご意見等）

- ・住まい確保支援事業や居住支援制度等の事業について理解を深めることができたので、必要時に活用していきたい。
- ・入居しているひとり暮らしの高齢者に認知症が発症し、計画的な転居が困難になるなど、高齢者の支援が困難になっている状況があり、さらなる支援策の充実が求められる。